

## 水戸藩の御林を管理した村人たち

私は近世（江戸時代）史を専門としており、取り組んでいるテーマの1つとして、領主による林野行政があります。

日本は森林資源が非常に豊富な国で、常陸大宮市についても、総面積34,838haのうち森林面積は21,691ha（森林率は62.1%）となっています。そのうち2,547haが国有林です（平成29年度「茨城の国有林」茨城森林管理署発行）。

江戸時代には幕府や藩が直轄する御林があり、それが現代の国有林にも引き継がれています。

常陸大宮市域は水戸藩領でしたので、市域には藩の御林が存在しました。水戸藩の藩有林は「御立山」といわれ、藩の利用目的により管理方法も異なりました。最も多いのが用材目的で、その管理事務は郡奉行所の役人が担当します。そして、現場で直接管理にあたったのは山横目（または大山守）一山仕立掛（庄屋格）一山世話役（組頭格）一小山守（または山守）らの村吏です。山横目は数村から十数村を一区域として任命され、有力な庄屋が兼帯することが多く、主な仕事は植林、山林の見廻り、下草刈り、立山の木の伐出に立ち会うなどで、その実施は小山守をはじめ配下の村役人を指揮して行っていました（『水戸市史』中巻1）。



近世史部会専門調査員 坂本 達彦  
（國學院大學栃木短期大学 日本文化学科教授）

このように江戸時代の林野行政は、村人にも任されていたため、藩有林の行政を調べるには、藩の役所に残された史料のみではなく、山横目などを務めた村役人の家に残されたものも調査・研究しなくてはなりません。

過日は、常陸大宮市文書館で保管されている若林・永山春代家文書を閲覧・撮影してきました。写真は文政9（1826）年のもので、小山守七兵衛は妻と死別し、家には老母と子供がいることを理由に退役を願っています（同家文書141）。家庭の事情で小山守職の辞職を願っています。このような記録も村役人の家に残されているのです。

今後は当館や茨城県立歴史館に所蔵されている史料とともに、未調査の古文書も調査し、新たな事実を発見していきたいと思っています。

市民の皆様には、情報提供などご協力を賜ると思います。よろしくお願ひします。

### お知らせ

市史編さんだよりVol.19（広報3月号掲載）で案内した『常陸大宮市史研究』第1号は現在、歴史民俗資料館大宮館と文書館で販売中です（500円）。ご希望の方はぜひ足を運んでみてください。※市史研究は完売後、インターネット上での公開を検討しています。



▲乍恐以書付奉願上候事

（長山春代家文書141，常陸大宮市文書館蔵）

### ■問い合わせ■

文化スポーツ課

文化・スポーツグループ ☎52-1111（内線344）